



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

10月号

令和6年10月1日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子どもたちの育成を願って～



「学びに向かう力」を鍛えることが、良い人生に結びつく

～世界の架け橋となる子どもたちを育てるために～

文部科学省の定める学習指導要領に、子どもたちが身に着きたい学びの三要素＝「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」が示されています。

「学びに向かう力」が特に重要です。好奇心や協調性、がんばる力などを示し、数量や文字・言葉などとは異なる力で、非認知スキルとも呼ばれています。

この力を身に着けることにより、どのように社会と関わり、良い人生を歩み、世界の架け橋となるうるか、その方法を考えることができるようになります。

多様性の尊重・協働による深い学び・持続可能な社会作り・リーダーシップやチームワーク・感性・優しさや思いやりなど、変化の激しい時代を生き抜くための実践力は「学びに向かう力」を鍛えることが何よりも重要なことです。

そこで2学期は、中南米の日本人学校とオンライン授業を実施し、互いの意見を聞き合い、知識のみならず、協働的な学びから思考を深めていきます。

集団活動では、連邦大交流・文化祭など異年齢と共同作業することによって、どう行動すべきかをまね、よりよい人間関係を築く姿勢を身に着けていきます。

地域や地域人材を生かした授業では、相手と対話する勇気を持ち、体験活動を通して、通じる喜び・知る喜びを深め、個が輝く場面作りを工夫します。

学びに向かう力があふれるリオ日学をこれからも大切にし、職員一同研鑽してまいります。

○ 心と心が触れ合う！ ～ 連邦大交流 ～

9月9日（月）、連邦大交流を実施しました。子どもたちと連邦大学生25名が一緒になって、お互いの文化を通して仲良く交流する企画です。短い時間の活動でも心の距離が縮まり、繋がる喜びを感じます。「同じ釜の飯を食う」企画が大成功、みんな仲良くなりました。

<連邦大交流フォトアルバム>



*写真上から、開会式・アイスブレイクゲーム・日学プレゼン・連邦大プレゼン・閉会式・学校昼食会

○ 和食の心を知る ～リオならでは 自然の恵み～



9月11日(水)、公邸料理人の木下様にご指導いただき、小学部56年・中学部合同の調理実習を行いました。和食の献立は、魚の刺身、鰻の蒲焼、胡瓜の蛇腹、イカの酢物、汁の鰻、潮鮮な白身魚(アール)と良いお出汁、木下様の手捌き、意を度し、なりました。呼吸の傍ら、洗うなどの作業を自信が、実感に金の白食の差せ、恵み最高。料理にこだわり、イシモチは、手頃で、とて見の、お出汁が、さばきた、自、なりました。出、み、を、料理人、の、考、え、を、考、え、ま、し、た。調理の器具ひとつに、お出汁、釜、全、寄、り、な、り、ま、し、た。自然の恵みを、調理実習と、な、り、ま、し、た。

○ 思いが伝わると気持ちがいい!



9月10日(火)、総合部・リマと(月)ホリデー、16日(月)サンホリデー、26日(木)小部234年・サゴ急用で欠席した。授業の初めは、話の数を、の、よ、い、遊、び、の、傾、け、を、味、わ、い、ま、し、た。気が、知、る、が、一、緒、に、な、り、ま、す。耳、を、き、き、ま、し、た。空、間、を、充、つ、て、い、ま、し、た。心、を、こ、め、て、い、ま、し、た。空、間、を、充、つ、て、い、ま、し、た。心、を、こ、め、て、い、ま、し、た。

○ 笑顔を生み出す! ～企画の勝利～



9月17日(火)、中下部の、日、本、式、突、撃、の、え、ん、で、を、2、3、年、生、や、私、が、担、任、し、て、い、た、時、間、を、忘、れ、な、く、い、ま、し、た。皆、の、笑、顔、が、私、の、心、を、こ、め、て、い、ま、し、た。空、間、を、充、つ、て、い、ま、し、た。心、を、こ、め、て、い、ま、し、た。

○ カリオカ (リオの人々) の人情に触れて



9月11日(水)、小学部23年生がフェア(市場)見学に行きました。働く人の工夫や買物をする人が何を求めているか、市場に入ると、仕事もかかわらなく、質問も、質、問、も、ナ、ナ、買、物、中、の、け、て、く、ウ、わ、り、ま、し、た。明、は、話、で、野、菜、利、益、か、知、り、た、人、々、の、生、活、に、関、心、を、も、つ、て、い、ま、し、た。心、を、こ、め、て、い、ま、し、た。空、間、を、充、つ、て、い、ま、し、た。心、を、こ、め、て、い、ま、し、た。

○ 地球規模で学ぶ



～南半球で暮らす意義～
小学3年生の理科で、「かげと太陽」を観察をしました。朝の1時、おき、の、記、録、を、し、て、ま、し、た。日、本、の、東、部、は、北、緯、3、5、度、を、通、り、ま、し、た。こ、の、貴、重、な、体、験、を、い、ま、し、た。心、を、こ、め、て、い、ま、し、た。空、間、を、充、つ、て、い、ま、し、た。心、を、こ、め、て、い、ま、し、た。

○ 元気でね!

9月20日(金)を最後に、**杉山 椿季**さん(小5)が帰国しました。
8月6日に編入してから、短い期間でしたが毎日勉強に、ドッチボールに、けん玉に元気いっぱい過ごしてきました。好きな教科は何ですか?の問いかけに、いつも「家庭科!」と答えてくれました。楽しかった日々をありがとう。日本でも明るく元気で活躍してください。



<お別れ・花向けの言葉より>

9月17日は「中秋の名月」でした。今年の日本はとても美しい月夜だったようで、日本から画像を送ってもらいました。リオも数日天気が悪かったのですが、17日は月夜が見られました。自宅のベランダから写真を撮りました。

私は月が好きです。32年前、サウジアラビア王国・ジェッダ日本人学校で勤務していた時、日中はとても暑くて40℃近い気温のため買物は夜に出かけていました。これは当時の写真ですが、カレンダーも月の満ち欠けで作られていたので、夜空を見上げるたびに、満月から三日月へと移ろう姿を見ては、月日の経過を感じたものです。リオは治安の関係で夜出歩くことはなかなかできず、あまり月夜を味わうことができませんが、こうして見比べると、月をずっと見ていたくなります。

昨年の9月の全校朝会で『キーウの月』という絵本を紹介したことを覚えていますか?ウクライナのキーウを舞台にした月の話ですが、この絵本は、今の悲しい現状の前に描かれています。「ローマで見る月と同じなのかな」「空を旅しながら、みんなに光を届けます」「月の光は、インドからペルーへ、テベレ川から死海へも、パスポートなしで旅をします」「国境を飛び越え、優しく包み込みます」。

これから始まる日本の生活で、淋しくなることがあったら、月を見上げてください。きっと私たちも同じ月を見ています。「頑張っているよ」とつぶやいてください。月を見上げる日常があることを幸せに感じてください。そこには砲弾の音は聞こえません。温かな月の光が、きっと心を前向きに照らしてくれます。遠く離れていても、リオで出会った仲間たちは、同じ月を見てひとつになれます。



○ 安全で安心できる学校であるために



9月27日(金)に、避難訓練・親子安全教室・引き渡し訓練を行いました。

避難訓練では、学校職員も一緒に職員室で身の安全を確保しました。

親子安全教室では、リオで有意義な生活を送るために気を付けることを大野領事様にご講話いただきました。特に、登下校時のバスの乗り降りでの危険があることを教わりました。私たちの学校生活を守るために日本国がついてくださるとのお言葉が、とてもありがたく響きました。



緊張感の連続でしたが、引き渡し訓練の後は、皆笑顔で帰宅しました。

安心の学校づくりに、全力を尽くします。

○ 豊かな自然に囲まれて



季節は春、木の実を食べにたくさんの鳥がやってきます。国鳥のトウカクノはその美しさに魅かれます。色鮮やかな鳥たちと陽気なさえずりに囲まれて、気持ちが穏やかになっていきます。

<美味しい記憶 食に感謝>

私が小学生の頃、病気がちの母は菜食主義に目覚め、食卓から肉魚卵が消えた。みそ汁の具は庭のタンポポ、天ぷらには柿の葉、肉の代用に大豆グルテンの加工品。今はビーガンという洒落た言葉があるが、育ち盛りの私には辛かった。

母の料理の美味しい記憶を辿ると「クロメスキ」がある。どこで習ったのか、フレンチ風コロッケを得意げに作った母の面影を思い出す。あの料理をもう一度味わってみたい。

私には好き嫌いは全くない。大人になって菜食から離れ、何でも美味しくいただいている。子どもたちとお弁当を食べると好き嫌いのお話になる。親の願いがこもった料理を、子どもにはできるだけ何でも感謝して美味しく食べてほしい。

美味しい記憶に何を語るか、数年先に聞いてみたい。